

令和 6 年度

「運営に関する計画」

【期末評価】

大阪市立焼野小学校

令和 7 年 2 月

大阪市立焼野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

本校児童は、令和3年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、自己肯定感に関する「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回は全国平均よりも10ポイント以上低い結果であった。自己肯定感の高い子どもは、様々なことに積極的に取組むことができるが、低い子どもは、「自分には無理」「どうせできない」という感情を抱く傾向がある。自己肯定感を高めることで、本校児童に「自分の可能性を信じて努力をする」「自分で考えて選択できる」「自分を大切に思え、同時に相手を大切に思うことができる」「社会のために役立つ人間であろうする」などの意識を育てたい。また、いじめなどによって他者を傷つける事案を未然に防ぐためにも、他者を思いやる心や、他者から必要とされているという実感を高めることが大切であると考える。

＜令和4～7年度に取組むべき課題＞

- 全教職員でいじめの未然防止や早期発見・早期対応に努め、他人の気持ちを考え、全教育活動を通して助け合いや思いやりあふれる児童の育成に努める。
- 児童の活躍の場を積極的に設定するとともに、承認・賞賛の場を増やし児童の自己肯定感を高める。
- 児童に人と関わる喜びを味わわせ、豊かな人間関係を育むことができるよう、児童のあいさつを活発化するとともに、異学年交流や縦割り班活動の充実を図る。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

本校の児童は、過去5年間の全国学力・学習状況調査において、国語科・算数科とも平均正答率が全国平均を上回り、学ぶ力は概ね備わっていると言える。児童質問紙においても、学習に対して「好き」「楽しい」「挑戦してみよう」「課題を解決したい」といった前向きな姿勢をもっていることがうかがえる。一方で、学力分布は、二極化の傾向が見られ、児童の実態に応じたきめ細やかな指導を行うことで、基礎・基本の定着と同時に、自ら学び考える力の育成を図る必要がある。また、国語科・算数科とともに、主に情報やデータを読み取り活用する力や、複数の条件をもとに記述する力に課題が見られる。

体力づくりについては、これまで「50m走」と「ソフトボール投げ」を中心に運動能力向上に向けて取組んできた。体力テストの記録が年々向上し、一定の成果が表れつつあるが、運動志向や運動経験、運動量の差が体力調査の結果に大きく影響を与えていていることが明らかになった。

また、コロナ禍の影響が続き、児童の生活環境の変化による健康に対する影響が課題となっている中、「適度な運動」「調和のとれた食事」「十分な休養・睡眠」「心の健康の保持」など、基本的な生活習慣を身に付けるようにすることも課題である。

＜令和4～7年度に取組むべき課題＞

- 「考え、表現する学び」「話し合う学び」「めあてを振り返る学び」を通して、児童が「わかった」「できた」という成就感や達成感を得られるよう、学習活動を工夫する。また、学習形態を工夫し、児童の実態に応じたきめ細やかな指導を行うことで、基礎・基本の定着と同時に自ら学び考える力の育成を図る。
- 体育行事や体育学習等を通した基礎的運動能力を向上させるための取組みを、年間を通して計画的に実施する。
- 感染症予防の日常指導に取組むとともに、健康に関する正しい知識や、よりよい生活習慣を身に付けるようにし、健康や体力を増進する力の育成を図る。

【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末等ICT機器の活用については、令和2年度より段階的に導入し、その有効活用を図ってきている。令和3年度には児童が学習者用端末を持ち帰り、学校と家庭で活用でき

るようとした。今後も、ICT機器の活用に積極的に取組み、児童の学習を充実させたり、児童理解を深めたりすることが課題である。

また、様々な教育課題への対応が求められる中、教育活動を円滑に推進し、質の高い教育を提供するためには、教職員が児童一人一人に寄り添うための時間を確保するとともに、心身ともに健康で生き生きと働くことができる環境づくりが必要である。そこで、教職員の働き方改革の視点で教育活動を見直し、教職員や保護者に過度な負担のないように教育活動を工夫していくことが課題である。

＜令和4～7年度に取組むべき課題＞

- 学習者用端末を積極的に活用し、個に応じた学びや協働的な学びの実現に向けた取組を実施する。また、ICT機器を活用することで児童の心の状態や日々の生活の状況を可視化し、児童理解を深め、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に取組む。
- 様々な教育課題の対応を円滑に行うことができるよう、児童一人一人に寄り添うための時間の確保や、教職員の健康保持及び長時間勤務の解消に取組む。
- 学校だよりやホームページを活用し、保護者や地域に向け、学校の様子を積極的に情報発信するとともに、家庭学習や家庭教育の充実に向けて保護者への啓発を図る。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
【R1:73%、R2:74.9%、R3:77.5%、R4:82.2%、R5:85.9%】
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を92%以上にする。
【R1:77.6%、R2:なし、R3:85.2%、R4:85.1%、R5:90.0%】※R3までは全国学力・学習状況調査による
- 令和4～7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を毎年90%以上にする。
【R3:校内91.6%、経年89.7%、R4:校内93.4%、経年87.7%、R5:校内94.4%、経年89.3%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査における「学校の勉強はよくわかる」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。
【R2:47.7%、R3:54.6%、R4:59.5%、R5:60.8%】
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を56%以上にする。
【R1:31.0%、R2:32.2%、R3:37.0%、R4:47.9、R5:55.7%】
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。
【R1:59.8%、R2:中止、R3:64.3%、R4:72.8%、R5:74.4%】

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査の「学校または家庭で1人1台パソコンをどれぐらい使っていますか」に対して、「毎日」「ほぼ毎日」と答える児童の割合を70%以上にする。
【R4:39.6%、R5:63.7%】
- 令和7年度の「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（1か月の超過勤務45時間以内）を満たす教員の割合を65%以上にする。
【R3:46.15%、R4:57.69%、R5:64.00%】
- 令和7年度末の校内調査における「1か月に1冊以上の本を読んでいる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
【R1:85%、R2:85.2%、R3:79.2%、R4:76.2%、R5:80.2%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96%以上にする。
- ②小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 87%以上にする。
- ③年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率について前年度並を維持する。
- ④年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。
- ⑤年度末の校内調査における「相手の目を見て、すすんであいさつをしている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50%以上にする。
- ⑥年度末の校内調査における「登下校の時間や、チャイムを守っている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 56%以上にする。
- ②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- ③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。
- ⑤本年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を前年度より向上させる。特に「50m走」「ソフトボール投げ」について向上をはかる。
- ⑥年度末の校内調査における「学校や家庭でよい姿勢で学習することを意識していますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ①授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%（令和 6 年度の市の目標値）以上にする。（ただし、学校行事等で ICT 活用が適さない日を除く）
- ②年間の教員 1 人あたりの平均時間外勤務時間が、市の校種別平均時間を下回るようにする。
- ③年度末の校内調査における「1か月に 1 冊以上の本を読んでいる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。
- ④年度末の校内調査における「学校は、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、保護者や地域に積極的に情報発信を行っている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する保護者の割合を前年度以上にする。

大阪市立焼野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>87%以上</u> にする。 【R3:86.5%、R4:83.5%、R5:85.7%、R6:86.8%】</p> <p>②小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>92%以上</u> にする。 【R3:85.2%、R4:85.1%、R5:90.0%、R6:92.5%】 ※R3は全国学力・学習状況調査による</p> <p>③年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率について<u>前年度並を維持する</u>。 【R3:1.89、R4:0.82、R5:0.00、R6:1.13%】</p> <p>④年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>87%以上</u> にする。 【R3:77.5%、R4:82.2%、R5:85.8%、R6:85.6%】</p> <p>⑤年度末の校内調査における「相手の目を見て、すすんであいさつをしている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>50%以上</u> にする。 【R3:50.4%、R4:49.3%、R6:44.8%、R6:51.4%】</p> <p>⑥年度末の校内調査における「登下校の時間や、チャイムを守っている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>70%以上</u> にする。 【R3:55.8%、R4:58.7%、R5:67.0%、R6:70.5%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現（いじめ未然防止）】</p> <p>○教育活動全体を通していじめ未然防止に向けて全教職員で計画的に取組む。また、いじめアンケートを年3回実施し、いじめを認知したケースについては、いじめ対策委員会等を活用して、全教職員の共通理解のもとで、その解消（事実確認の対策も含む）に組織的に取組む。</p> <p>指標①「いのち・いじめについて考える日」（校長講話、学級指導、児童会の取組等）の取組を各学期1回実施する。</p> <p>②生活指導上の課題や配慮を要する児童の状況、児童や保護者への対応についての課題や教職員の困り感について、全教職員で共通理解を図る場を月に1回以上設定する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現（安全教育・環境）】</p> <p>○防災教育等を推進するため、「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づいて、災害時に備えた訓練を実施する。</p> <p>○定期的に校内の施設・設備の安全性を全教職員で確認するとともに、児童の命を守るため、より安全で安心できる教育環境を整備する。</p> <p>指標①避難（防犯も含む）訓練を非常時の状態を想定しながら年3回実施する。また、不審者侵入研修を年1回行う。</p> <p>②全教職員による安全点検を月1回実施するとともに、教育環境の整備に向けた具体策を検討する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成（集団育成）】</p> <p>○毎月の生活目標を設定して意識化を図るとともに、生活目標の取組評価や生活指導上の課題について、職員打合せ（毎週）等の場で共通理解しながら全教職員で指導にあたる。また、生活指導の重点として「進んで気持ちのよいあいさつができる子どもの育成」を設定し、学校全体で取組む。</p> <p>○授業や学校生活の中で児童が主体的に考え、判断する場面を大切にするとともに、児童一人一人が力を発揮し、そのよさを認め合える集団づくりをめざし、学校全体で取組む。</p> <p>○多様な体験活動を通じて、児童が主体的に活躍できる場を設定することで、承認・賞賛の場を増やし児童の自己肯定感を高める。</p> <p>○児童に人と関わる喜びを味わわせ、豊かな人間関係を育むことができるよう、異学年交流や縦割り班活動の充実を図る。</p> <p>指標①年間の生活目標の計画に合わせ、学期に1回以上「あいさつ強調週間」等を設定し、児童会活動や生活指導部等が連携して取組みを実施する。</p> <p>②教育活動全体を通して、児童一人一人のよさを賞賛したり、友だちから認められたりする場の設定を工夫し、年間を通して各学級（学年）や学校全体で取組む。</p> <p>③校外活動、出前授業、地域との交流活動等、多様な体験活動を年間20回以上設定し、実施する。</p> <p>④異学年交流や縦割り班活動を年間20回以上設定し、実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現（いじめ未然防止）】

- ・学年間の情報共有や担任の細やかな対応により、いじめ案件が減少している。各学期に「いじめについて考える日」を設定し、校長講話や児童朝会、学級活動等で児童が真剣に考える機会を設けていることで、いじめ防止への意識が高められている。また、いじめアンケートを年間3回実施し、把握した事案はすべて解決している。1月の校内調査では92.2%の児童が「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答しているが、他者の気持ちを考えない言葉を使うトラブルも見られることが課題である。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現（安全教育・環境）】

- ・避難訓練や安全点検は計画通りに行なった。地震・津波や防犯など様々な状況を想定した訓練を実施し、月1回の安全点検も全教職員で欠かさず行なってきた。訓練での反省をもとに、今後は児童の防災意識を高めるために、休み時間も含めた様々な状況を想定して計画していく。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成（集団育成）】

- ・異学年交流や縦割り班活動が年間計画に沿って実施され、児童は多くの学年と関わる機会を得た。あいさつ運動などの取組みにより、児童がよりよい学校生活を送ろうとする意識が向上している。校外活動、出前授業、地域との交流活動等の多様な体験活動が計画以上に行なわれ、児童は校内外の多くの人たちと交流することにより、思いやりの心や豊かな心を育むことができた。

今後への改善点

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現（いじめ未然防止）】

- ・いじめの未然防止に向けて、継続的な指導と児童の観察を今後も重視していく。いじめ事案は減少しているが、全児童が「いじめは絶対にダメ」と認識するまで指導を続けることが大切である。また、児童が他者の気持ちを考え、思いやりのある言葉を自然に使えるよう支援・指導を継続・強化する。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現（安全教育・環境）】

- ・避難訓練を実施する際に、児童に時間を知らせずに行なうことで、児童が緊急時にどのように避難すればよいかを考える機会とする。例えば、休み時間や登下校中など授業時間以外でも避難訓練を行い、実際の緊急時を想定した組織的な対応を強化する必要がある。また、訓練の反省をもとに、防火バケツの配置や柔軟な対応を含め、児童の命を守るための対策をさらに改善していく。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成（集団育成）】

- ・児童会活動と生活指導の担当間の連携を強化し、集団育成の取組みをさらに拡大する。あいさつ運動はマンネリ化しているため、新しい取組みを考える時期に来ている。異学年交流については、ペア学年での活動を取り入れるなど、縦割り班の活動を工夫し、児童が互いの良さを認め合える場の設定をさらに進めていく。
- ・「ハッピープロジェクト」（ポジティブ行動支援）の取組みの継続が望まれるが、負担にならない範囲で進めるのが理想である。

大阪市立焼野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標								達成状況	
【未来を切り拓く学力・体力の向上】									
①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>56%以上</u> にする。									
【R3:37.0%、R4:47.9%、R5:55.7%、R6 : 46.3%】									
②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より <u>0.01 ポイント向上</u> させる。									
平均正答率 対全国比	国語				算数				
	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5	R6	
	現6年生	0.96	↓0.94	↑1.05	↑1.06	0.97	↓0.94	↑1.10	↓1.05
	現5年生		1.02	↓1.01	↑1.05		1.06	→1.06	↓1.04
	現4年生			1.00	↓0.93			1.04	↓0.90
	現3年生				0.99				0.89
	③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>85%以上</u> にする。								
	【R3:76.2%、R4:83.5%、R5:83.9%、R6 : 82.8%】								
	④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>75%以上</u> にする。								
	【R3:63.6%、R4:72.8%、R5:74.4%、R6 : 67.4%】								
⑤本年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を前年度より向上させる。特に「50m走」「ソフトボール投げ」について向上をはかる。									
5年生	50m走		ソフトボール投げ		体力合計点				
	男子	女子	男子	女子	男子	女子			
	R6	9.12	9.46	17.72	14.10	54.72	56.57		
	R5	9.05	9.64	22.38	12.83	52.33	52.65		
	R4	9.36	9.54	19.89	11.87	50.71	52.53		
	大阪市 (R5)	9.50	9.74	20.35	12.69	51.13	52.67		
	全国 (R5)	9.48	9.71	20.52	13.22	52.59	54.28		
⑥年度末の校内調査における「学校や家庭でよい姿勢で学習することを意識していますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%以上</u> にする。									
【R4:78.4%（新規）、R5:79.4%、R6 : 80.5%】									

B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（授業力向上）】 <ul style="list-style-type: none"> ○児童が言語力や情報活用能力を身に付けることができるよう、実践的な研究・研修活動に取組む。 ○主体的に学びあい、深めあう学習集団づくりを通して、児童一人一人が考えを広めたり深めたりできるよう指導を工夫し、実践する。 	A
指標① 児童が「考え、表現する学び」「話し合う学び」「めあてを振り返る学び」を通して、わかりやすく楽しく学べるよう指導力の向上を目指し、全教員が年間1回の公開授業を実施する。【全員が1回行った上で、2回以上することがあればA評価】	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（学力向上）】 <ul style="list-style-type: none"> ○全学年で日常的に「考え、表現する学び」「話し合う学び」「めあてを振り返る学び」を大切にした授業づくりに取組むとともに、児童が「わかった」「できた」を実感できるよう学習活動や板書、教材・教具等を工夫する。 ○児童の学習状況を把握し、多様な学習形態を取り入れながら協働的な学習に日常的に取組む。 	A
指標① 言語力や情報活用能力の育成に重点を置いた指導や活動を週に3回以上実施する。 また、市「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく学習を年間8時間実施する。 ②話し合いを通じて自分の考えを深めたり広げたりする活動を、週に3回以上実施する。	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（英語力向上）】 <ul style="list-style-type: none"> ○3～6年の英語活動、英語科の指導に加え、小学校低学年からの英語力向上をめざし、全学年での英語モジュール授業を週20分実施する。 	B
指標① 全学年で英語モジュール学習を毎週20分以上行う。【年間の平均が週20分を超えるればA評価とする】	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成（体力向上）】 <ul style="list-style-type: none"> ○かけ足、なわとび、鉄棒、シナプソロジー、サーキットトレーニングなど、基礎的運動能力を向上させるための取組みについて年間を通して計画的に実施する。また、体力テストのうち「50m走」「ソフトボール投げ」を全学年で実施する。 ○休み時間に運動場で積極的に外遊びするよう、日常的に声かけを行う。 	B
指標① 「50m走」「ソフトボール投げ」に関わる基礎的運動能力を高めるための取組みを選択・工夫して体育科の学習に取り入れ、年3回以上実施する。	
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成（健康教育）】 <ul style="list-style-type: none"> ○健康生活週間を実施し、正しい手洗いの習慣が身につくように指導する。 ○栄養指導等を通して、「食」への意識を向上させるとともに、「早寝 早起き 朝ごはん」の基本的な生活習慣を身に付けるよう指導する。 ○学習中によりい姿勢を意識できるよう、日常的に声かけや指導を行う。 	B
指標① 手洗いのタイミングで声をかけるとともに、可能な限り週に1回の清潔調べを実施し、評価・検証する。 ②給食カレンダーの活用や栄養教諭による栄養指導を計画的に実施するとともに、保護者宛プリント等で基本的生活習慣の向上に向けての啓発を行う。 ③よい姿勢を意識できる掲示物などを工夫するとともに、校長講話、養護教諭の保健指導等を年間3回以上行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（授業力向上）】

- ・研究授業や公開授業は計画的に実施することができた。社会科や生活科の研究を通して、全学年で研究授業のみならず、日常の授業でも調べる力、考える力の育成を重視した授業を行うとともに、学習の振り返りの時間を大切にしてきた。また、ペアやグループ、学級全体での話し合い活動を積極的に取り入れ、児童が「考え、表現する学び」「話し合う学び」「めあてを振り返る学び」を実践することができた。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（学力向上）】

- ・「総合的読解力育成カリキュラム」にもとづいた学習は3～6年で年間8時間実施され、計画通りに進められた。また、各学級で話し合い活動を週に3回以上取り入れ、児童が自分の考えを深めたり広げたりする機会を積極的に設けることができた。1月の校内調査では、59.2%の児童が「学校の勉強はよくわかる」と回答したが、学級によってばらつきが見られる。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（英語力向上）】

- ・英語モジュール学習は週に20分行われ、計画通りに実施されたが、クラスによって取組みに差が見られる。外国語をより身近に感じるために、時間の確保が課題である。

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成（体力向上）】

- ・「体力テスト練習会」「なわとび週間」「かけ足週間」と、児童の運動への関心や、体力向上の取組みを年間3回実施したこと、児童が楽しく体力向上に取組む姿が見られた。また、体育科の授業でウォーミングアップに走に関する活動を積極的に取り入れるなどの取組みを行った。1月の校内調査では、68.3%の児童が「外遊びや体を動かすことが好きだ」と回答しており、休み時間に運動場で活動する児童も増えている。

取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成（健康教育）】

- ・給食前や体育の後に手を洗う意識が低い児童が多く、年間を通して声かけを継続した。よい姿勢については、発育測定時や日々の声かけによって意識できるようになった児童が増えた。健康生活週間や清潔調べ、保健だよりでの啓発など、健康に関する取組みは年間計画通りに実施されたが、手洗いや姿勢の習慣化にはさらなる工夫が必要である。1月の校内調査では、35.4%の児童が「学校や家でよい姿勢で学習している」と回答している。

今後への改善点

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（授業力向上）】

- ・来年度も全学年で同じ方向性で研究を継続するとともに、日常的に質の高い授業をめざすことが大切である。今後は、他学年の授業の取組みや、各教科の6年間の系統性について教員間で共有することで、学校全体の授業力向上を図る。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（学力向上）】

- ・授業中、特に支援が必要な児童や、学習に困難がある児童にのみ着目しがちであるが、学級全体の学力を底上げするためには、学力面での「中間層」の児童にも目配りし、きめ細やかな指導・支援を行う必要がある。
- ・生活科・社会科の研究を通じて、自分の考えを交流し、深める授業展開が定着したが、自分の考えを書く、話すことが苦手な児童に対する個別の細やかな支援・指導が必要である。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（英語力向上）】

- ・モジュール学習は、児童が外国語に慣れるようにする上で有効であることから、今後も計画的に学習を続けるために、各学年の実態に合わせて実施方法を工夫する。

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成（体力向上）】

- ・休み時間の外遊びを積極的にすすめるとともに、学期に1回程度の体力向上の取組みを継続する。また、体育科の授業において様々な運動を取り入れるとともに、新しい指導法については、研修会などの場を設定し、教員間で共有できるようにする。

取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成（健康教育）】

- ・各担任が給食当番以外の児童にも手洗いを促し、健康教育部が啓発活動を行う。また、ハンカチやティッシュの清潔調べを毎週行い、持参しない児童には声かけや学年だより等での通知を続ける。姿勢については共通の掲示物を用意するほか、家庭への啓発も必要である。引き続き、姿勢の指導や手洗いの習慣化のための取組みを続けていく。

大阪市立焼野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、<u>年間授業日の50%</u>（令和6年度の市の目標値）<u>以上</u>にする。（ただし、学校行事等でICT活用が適さない日を除く）【R5:0.6%、R6:3%】</p> <p>② 年間の教員1人あたりの平均時間外勤務時間が、<u>市の校種別平均時間を下回る</u>ようにする。 【R3の累計：市平均+15分、R4の累計：市平均-47分、R5の累計：市平均+72分、<u>R6の累計：市平均+268分</u>】</p> <p>③ 年度末の校内調査における「1か月に1冊以上の本を読んでいる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<u>82%以上</u>にする。 【R3:79.2%、R4:76.2%、R5:80.2%、<u>R6:82.4%</u>】</p> <p>④ 年度末の校内調査における「学校は、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、保護者や地域に積極的に情報発信を行っている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する保護者の割合を<u>前年度以上</u>にする。【R3:50.7%、R4:66.7%、R5:64.6%、<u>R6:60.3%</u>】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進(ICT機器を活用した学習)】 ○学習者用端末を積極的に活用し、個に応じた学びや協働的な学びの実現に向けた取組を実施する。	B
指標① 学習者用端末やプロジェクターなどのICT機器を活用した授業を週平均3回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進(ICT機器を活用した児童理解)】 ○ICT機器を活用することで児童の心の状態や日々の生活の状況を可視化し、児童理解を深め、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に取組む。	B
指標① 学校行事等の場合を除き、全児童（欠席した日を除く）がおおむね毎日1回以上「心の天気」の入力を行う。（1年生については2学期から実施）【おおむね毎日2回以上入力すればA評価】	
取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり(働き方改革)】 ○様々な教育課題の対応を円滑に行うことができるよう、児童一人一人に寄り添うための時間の確保や、教職員の健康保持及び長時間勤務の解消に取組む。	
指標① 全体で共有する内容については、部会等で事前に十分に検討してから提案する、説明・報告内容を精選する等を全教職員が意識することで、会議時間の縮減を図る。また、「ゆとりの日」として「ノー残業デー（18時を退勤目標とする日）」を月に2回、「ノー会議デー（放課後に教職員全体の会議・研修を設定しない日）」を月に3回以上設定する。	B
取組内容④【基本的な方向8 生涯学習の支援(読書習慣)】 ○図書ボランティアとの連携を図り、読書環境の充実を行い、読書習慣の定着に向けた取組みを実施する。	B
指標① ・朝の読書タイムや図書の時間等を活用して、週1回以上読書活動に取組む。	
取組内容⑤【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進(情報発信)】 ○学校だよりやホームページを活用し、保護者や地域に向け、学校の様子を積極的に情報発信する。	A
指標① 課業日は、学校ホームページの「学校日記」の記事を1日1本以上配信する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 (ICT機器を活用した学習)】

- ・毎日、プロジェクターや大型テレビなどの ICT 機器を利用した授業を行い、学習者用端末を積極的に活用している。デジタル教科書を活用し、学習者用端末ではデジタルドリルを使った自主学習も行っている。国語科、算数科、社会科、理科、外国語科（外国語活動）、音楽科、家庭科などで ICT 機器を活用した授業はほぼ毎日実施されているが、学習者用端末の使用は月に 1 回程度にとどまっている。ICT を活用した学習は教員、児童ともに定着しているが、単元によって使用頻度にばらつきがある。

取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 (ICT機器を活用した児童理解)】

- ・担任の声かけにより「心の天気」の入力は定着しつつあるが、全児童が入力するまでには至っていない。毎日声かけを続け、児童の心の変化に気づけるよう努めているが、学年や学級によってばらつきがあることが課題である。また、朝の「心の天気」を担任がチェックし、気になる児童に声掛けなどをすることが有効であるが、業務が多忙な日は放課後までチェックできない日もある。

取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり（働き方改革）】

- ・部会や企画会での話し合いや報告内容の精選による企画会及び職員会議の時間は縮減されており、業務負担軽減への意識が高まっているが、実際には業務量が減っておらず、「ゆとりの日」にも仕事を家庭に持ち帰ることが多いことが現実である。長時間勤務の解消には課題が残っている。

取組内容④【基本的な方向 8 生涯学習の支援（読書習慣）】

- ・新しい読書週間の取組みを実施し、朝の読書タイムや図書の時間が有効に活用されている。「読書マラソン」や放送による読書タイムの導入により、読書好きな児童が増え、読書活動が活性化した。1月の校内調査では、80.4%の児童が「1か月に 1 冊以上の本を読んでいる」と回答し、計画通りに読書推進が進んでいる。

取組内容⑤【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進（情報発信）】

- ・「学校日記」の記事は毎日 1 本以上配信されている。様々な学年の児童の活動や板書などがよくわかり、指導者の教材研究の参考にもなっている。校長室だよりやホームページは日々の学習の様子を保護者に知らせる場として有効であり、保護者からも好評である。

今後への改善点

取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進（ICT機器を活用した学習）】

- 使うことや数値だけを目標にするのではなく、教員や児童がメリットを感じられる環境を整えていく。学習者用端末の使用には計画が必要で、単元や教科ごとに使用時期を考えていく。また、家庭に持ち帰る機会の設定など、授業以外での使用方法について全体で共通理解をする。
- タイピング力の差が授業のロスタイムになることが課題である。
- 情報モラルや使い方の指導が日常的に必要で、ルールの徹底を図る。

取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進（ICT機器を活用した児童理解）】

- 「心の天気」を全員が取組めるようにするには、声かけや掲示が必要であり、入力時間の確保に努める。学習や行事のふりかえり、友達関係の記録に役立つツールであり、児童の気持ちを理解するために重要な取組である。年度初めに記入内容を伝え、形骸化しないように各学級での指導と習慣化が求められる。

取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり（働き方改革）】

- 働き方改革の意識は高まっているが、業務内容が増えており、個人の努力に頼る状況が続いている。新しい取組みが増える中で、何を減らすかを考える必要があり、思い切った削減が求められる。会議の時間は短縮されたが、依然として長時間勤務が続くため、年間を通した計画と実施が重要である。

取組内容④【基本的な方向 8 生涯学習の支援（読書習慣）】

- 学校としての取組みは行われているが、家庭環境や子どもを取り巻く環境の影響も大きく、日常的に読書に親しむ子どもの数には課題が残る。「読書マラソン」の継続には時期や内容の検討が必要であり、読書嫌いの子どもたちへのアプローチも工夫していく。高学年では図書の時間確保が難しく、読書タイムや図書館開放の継続が求められる。

取組内容⑤【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進（情報発信）】

- 現在は管理職が中心に情報発信を行っているが、今後は学校としての情報発信の方法を検討する。各学年の担任が担当する場合、今の頻度での掲載は難しいため、発信者を教職員全体に広げることを検討する。